

佳作

支えられてチャレンジできた全国大会

新潟県上越市立中郷中学校

2年 杉山 愛理

「先頭を引っ張るのは杉山愛理、上越中郷！」このアナウンスを聞いて一気に胸が熱くなりました。

私は、陸上競技をやっています。今年の夏初めての全国大会に出場しました。会場は沖縄でした。初めて飛行機に乗り、鳥になった気分で高いところから一望する大地は、とてもきれいでした。

私の出場する種目は、女子1500mです。大会自体は、8月17日から8月20日の間に行われ、19日に予選、20日に決勝が行われる予定でした。しかし、台風が発生し、19日に予定されていた予選が次の日に順延するというハプニングが起きました。正直、とても驚きました。「タイムレース決勝になるのかな、中止にならないかな」など、不安なことで頭がいっぱいでした。しばらくして大会のホームページで20日の競技日程についての文書が公開されました。なんとそこには午前9時から予選があり、午後4時から決勝があると書いてありました。私は、またも驚き、頭が真っ白になりました。一日に2本も走るんだ、予選もあるんだと、考えもしなかった日程に驚きを隠せませんでした。

ウォーミングアップなどの関係で6時には会場に着いていないといけない状況になりました。ですが、私の泊まっているホテルから競技場までは、約50分もかかってしまい、朝大変なので、少しでも競技場まで近い家族が泊まっているホテルにその日だけ泊めさせてもらいました。

そして迎えた当日、朝4時に起きて、兄と朝練に行きました。朝一の試合になるので、体を起こしに行くためです。海辺に行きました。まだ暗く、海は見えなかったけれど、背中を押す風が「頑張れー」と応援してくれているような感じがしました。朝練も終わり、緊張で喉を通らない朝ごはんを無理やり口に入れ、出発しました。

競技場に着いて間もなく、ウォーミングアップを始めました。ありがたいことに、私には専属のコーチ（兄）がいるので一緒にアップもしてくれました。兄がそばにいてくれるだけで安心するし、ポジティブな声掛けもしてくれるのでも、いつもは弱音を吐いてしまう私ですが、その日はなぜかレースを全力で楽しもうという考えに変わっていました。

アップを終え、家族に見送ってもらい、招集所に向かいました。予選は3組あり、各組4着までとその他でタイムが良かった上位3名が決勝に進むことが

できます。私は1組でした。1組は特に速い選手が集結していました。緊張とワクワクを胸に、私はついにスタートラインに立ちました。「On Your Mark パン！」の合図とともに、私のチャレンジは始まりました。私は後ろからのスタートになりました。前に出たくても前に人がいて出られない。そんな状態が続きました。けれど、淡々とレースが進んでいくうちに前の選手を抜いていき、先頭集団に追い付けました。結果は7着でした。ゴールした瞬間は、「ダメだ、決勝には進めないな。でもここで走れて楽しかったな。」そう思いました。

しかし、その後の2、3組を見ていた時、もしかしたら、タイムで拾われて決勝に残れるかも、こんな気持ちが芽生えました。結局、決勝に進めたか分からぬまま、どきどきしながら歩いていると、新潟県チームのコーチに会い、「おめでとう。決勝残ったね。」と教えてもらいました。その瞬間、私は涙が溢れました。とてもうれしかったです。走って家族の元へ駆け寄り、家族みんなで喜びました。

決勝に出ることが決まったので、決勝の時間まで家族のホテルへ一度戻って、涼しい部屋で休みました。

次は決勝です。決勝は悔いの残らないように思いっきり暴れようと心に誓い、挑みました。私は先頭に出ました。800mまで先頭で引っ張りました。後半は、体力が持たず、タイムも全然ダメだったけれど、何回も名前が呼ばれたこと、全国の大舞台で先頭に出て引っ張るというチャレンジができたことは、順位以上に得られるものがあり、とても良い経験ができたと思います。

私が思いっきりチャレンジできたのは、現地でたくさんサポートしてくれた家族、新潟から応援してくれたコーチ、先生、地域の方、友達などのおかげです。心から感謝しています。そして私は全国大会に出場したこと、どれだけ恵まれているか、愛されているのか、応援してくれている人がいるかを知ることができました。私の走りで勇気をもらったと言ってくれる人がいるので、もっと多くの人に勇気や感動を与えられる選手になりたいです。そのためにも、高い目標を掲げ、その目標に向かって努力を続けて、いろいろなことにチャレンジをしていきたいです。